

来場者に剪画の技法を伝える松永さん（山口銀行藤山支店で）



涼を感じるうちわ27枚

山銀藤山支店 9月5日まで 剪画協会

日本剪画（せんが）協会（石田良介会長）の「納涼うちわ展」が、山口銀行藤山支店（堺邦彦支店長）で開かれている。会員ら22人が制作した27枚のうちわに、来店者がひとときの涼を得ている。9月5日まで。

同協会夏の剪画展の巡回展で、同店では1月の年賀状展に続く2回目の開催。宇部市内の会員で、市男女共同参画センターの教室で指導する松永さん（小松原町）の働き掛けで実現した。剪画は、和紙など一枚の黒い紙をカッターナイフで切り抜き、黒と白のコントラストで光や陰、立体感を表現。台紙に貼

って完成させる。夏の剪画展は台紙をうちわに変え、季節を感じる題材で技術と表現力を競った。金賞に輝いた小生恵美

子さん（埼玉県）の「船弁慶」は、京都の五条大橋で向かい合う弁慶と牛若丸（源義経）を描いた作品。歌舞伎をテーマに作品を作り続ける作者の繊細で力強い線が、緊迫の瞬間を涼やかに表現した。

松永さんは「白と黒を基調としたシンプルな表現だが、線に個性が現れる。酷暑の中、作品を通じて少しでも涼を感じてもらえたら」と話した。剪画を趣味として始めてみたい人は、市男女共同参画センター（電話331-4004）へ。